CHANNEL
HPMA Spotlight Artist Showcase

1. 《神戸市の路上-電線点検作業》2016年
※引用資料：人と防災未来センター蔵

注目作家紹介プログラム　チャンネル 7

髙橋耕平 ー 街の仮縫い、個と歩み

Spotlight Artist Showcase CHANNEL vol.7

Takahashi Kohei : Transitional Cityscapes, Individual Paths

2016年10月15日［土］—11月20日［日］

開催要項

学芸員イチオシの注目作家を紹介するシリーズの第7回。
近年、新展開で話題の髙橋耕平、公立美術館での初個展。

兵庫県立美術館では、担当学芸員がいま最も注目すべきと考える作家を個展形式で紹介するシリーズ展「注目作家紹介プログラム　チャンネル」*を2010年度より毎年度開催してきました。

7回目となる2016年度の「チャンネル」では、髙橋耕平（1977～）の個展を開催します。髙橋は2000年代より京都を拠点に活動してきましたが、2013年のGallery PARC（京都）での個展《HARADA–san》以降、特に作品で扱う主題の面で大きな変化を見せ、話題を集めています。

近年、現代美術の領域では、特定の場や人を取材し、映像や写真、言葉などで表現するというスタイルで、多くの注目すべき作品が生み出されています。髙橋の近作もこの傾向に属するもので、特に記録や記憶の継承と断絶、個人と社会や集団との関係といった問題を注視し、題材としてきました。主に映像によるドキュメントの手法を用いながらも、巧みに作品構造を複層化し、なおかつ生々しい身体性をともなう（いわば「メタ」かつ「ベタ」な）作風、鋭くシニカルでありつつユーモアも感じさせる点に、強い独自性が感じられます。

2016年には「PATinKyoto　京都版画トリエンナーレ2016」の出品作家に選出され、2017年1月からは豊田市美術館で小林耕平との二人展「切断してみる。―二人の耕平」が予定されているなど、まさに今もっとも旬な注目作家の一人。本展が公立美術館での初の個展となります。

CHANNEL
HPMA Spotlight Artist Showcase

＊注目作家紹介プログラム“チャンネル”とは

チャンネル（channel）という単語には「海峡」や「水路」、美術館の前にもある「運河」、テレビやラジオの「チャンネル（局）」、「思考・行動の方向」、さらには何ものかとの「交信」など、様々な意味があります。そこに共通するのは「何かと何かをつなぐこと」。美術館を訪れる人と、同じ時代を生きるアーティストとがつながっていくことを願って、タイトルを“チャンネル”としました。

2. 《神戸市の公園―仮設住宅に庇を設置》2016年
※引用資料：人と防災未来センター蔵

テーマは「阪神・淡路大震災以降の、都市の経験と記憶」。
21年という時間の距離があるからこそ、可能な表現とは。

本展で髙橋は、21年前に起こった阪神・淡路大震災以降の、都市の経験や記憶をテーマに、神戸・阪神間で撮影した映像や写真等から成るインスタレーションを新たに制作、発表します。

たとえ同じ街に暮らしていても、それぞれの人の身体は街を違ったふうに経験しています。街のある造りが、ある人には便利な一方で、他の人には障害となることもあります。しかしどのような場合もそこに生きる人は、解決の糸口を求め、自らの身体で街を探り、縫うように歩を進めます。それはまるで、それぞれの身体にあわせ街を更新し続ける仮縫いのようだ、と髙橋はとらえます。

21年前にさまざまな人がこの街で経験したことの記憶や記録。さらに現在それぞれの人がこの街をどのように経験し、歩み続けているのか。ともすれば「被災地の経験」などとひと言でくくられがちな、しかし決して誰一人同じではない交換不可能な個別性に注意を払いつつ、髙橋はそれらをいったん解き、自身の経験として新たに緩く縫い直し、提示します。

当館では、阪神・淡路大震災を直接にとらえた作品を集めた「震災から5年　震災と美術― 1.17から生まれたもの」（2000年）をはじめ、阪神・淡路大震災に関する展覧会をこれまでにも何度か開催してきました**。発災から21年が過ぎて開催される本展は、時間的にも空間的にも、いわゆる当事者と呼ばれる立場からはやや距離のある作り手が、震災に関わる記憶をどのように自らの身体に引き受け、新たな意味を加えて鑑賞者に提示しうるのか、その距離ゆえの可能性を探る試みとも言えます。

この展覧会場に身を置くことが、直接的な被災経験の有無を越えて多くの方にとり、自分とは異なる個の経験に想像を巡らせ、街で生き歩み続けることについて考える機会となることを願い、本展を開催します。

****兵庫県立美術館における阪神・淡路大震災関連企画**

・2000年
震災から5年　震災と美術―1.17から生まれたもの―
（前身である兵庫県立近代美術館での開催）

・2005年
震災復興10周年記念国際公募展　兵庫国際絵画コンペティション／「震災から10年」記念事業　建築物経年変化保存計画―ウクレレとナミイタの展示―

・2014-15年
阪神・淡路大震災から20年

開催情報

会　期
2016（平成28）年10月15日［土］―11月20日［日］

休館日　月曜日

開館時間
午前10時～午後6時（金・土曜日は午後8時まで）

会　場
兵庫県立美術館　ギャラリー棟1階　アトリエ1、ホワイエ

観覧料　無料

主　催　兵庫県立美術館

後　援
公益財団法人 伊藤文化財団

助　成
公益財団法人 朝日新聞文化財団
公益財団法人 テルモ生命科学芸術財団
公益財団法人 中内力コンベンション振興財団

協力
阪神・淡路大震災記念　人と防災未来センター

文化庁
平成28年度　文化庁
文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業

（2016年7月現在）

髙橋耕平（たかはし・こうへい）　略歴

（参考図版）《HARADA-san》2013年
Gallery PARCでの展示風景

1977年 京都府生まれ　現在、京都市在住
2000年 京都精華大学芸術学部造形専攻版画分野卒業
2002年 京都精華大学大学院修士課程　芸術研究科造形専攻修了

作家HP　http://www.takahashi-kohei.jp/

【主な展覧会（2010年以降）】
2010年
「The same thing or similar things, and an action.」AD&A gallery（大阪）
「TとTたち-アーティストと、他者としてのアーティスト」名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー『clas』（愛知）
2011年
「イコノフォビア―図像の魅惑と恐怖―」愛知県美術館ギャラリー G1・G2、florist_gallery N（愛知）
「加納俊輔・髙橋耕平展『パズルと反芻』」Social Kitchen、LABORATORY、Division（京都）
2012年
「かげうつし―写映｜遷移｜伝染」京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA（京都）
「加納俊輔・髙橋耕平展『パズルと反芻』」island MEDIUM、NADiff window gallery、実家JIKKA（東京）
「『消息–Presage』鈴木崇＋髙橋耕平」HI–NEST BLDG（京都）
2013年
「コレクション展II 特集 新収蔵品紹介『信濃橋画廊コレクション』を中心に」兵庫県立美術館 常設展示室
個展「HARADA–san」Gallery PARC（京都）
2014年
「反戦―来るべき戦争に抗うために」snow contemporary（東京）
「imitator 2」MART（ダブリン）
個展「史と詩と私と」（作家ドラフト2014企画）京都芸術センター ギャラリー南（京都）
2015年
「ほんとの うえの ツクリゴト」岡崎市旧本多忠次邸（愛知）
「still moving」
（PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 特別連携プログラム／京芸Transmit Program #6）
元・崇仁小学校、崇仁地域周辺、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA（京都）
「HOME PARTY 03 ―虹の美術館―」みずのき美術館、亀岡市文化資料館（京都）
「秘仏十一面観音像御開帳関連企画《kiseki - キセキ -》」観菩提寺正月堂 客殿（三重）
「社会の芸術フォーラム展『躊躇』」HIGURE 17-15 cas（東京）
2016年
「PATinKyoto　京都版画トリエンナーレ2016」京都市美術館（京都）
「記述の技術　Art of Discription」ARTZONE + MEDIA SHOP gallery（京都）
2017年（予定）
「切断してみる。―二人の耕平」豊田市美術館（愛知）

（参考図版）《史と詩と私と》2014年
京都芸術センターギャラリー南での展示風景

【主な上映（同）】
2012年
「Kashiwa City Jack -Asia Pacific Contemporary Media Arts from Daisuke Miyatsu Collection-」
柏市内各所（千葉）
2015年
「なぜ「私」が撮るのか」（「引込線2015」関連イベント）旧所沢市立第２学校給食センター（埼玉）

【パブリックコレクション】
京都精華大学
兵庫県立美術館（信濃橋画廊コレクション）
町田市立国際版画美術館
和歌山県立近代美術館（ユニットワーク：大崎のぶゆき、髙橋耕平、田中さつき）

関連事業

【アーティスト・トーク】
10月15日［土］15:30—16:50
レクチャールーム（定員100名）、展覧会場にて　聴講無料
※兵庫県立美術館「芸術の館友の会」共催事業
※トーク終了後、17:00より友の会会員限定のスペシャルイベント有。

【対談：村上しほり*× 髙橋耕平】
11月19日［土］15:30—17:00
（*人と防災未来センター 震災資料専門員／神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 研究員）
レクチャールーム（定員100名）にて　聴講無料
※兵庫県立美術館「芸術の館友の会」支援事業

お問い合わせ先

兵庫県立美術館
〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL: 078-262-0901（代表）　FAX: 078-262-0903

取材・写真提供に関すること
営業・広報グループ
TEL: 078-262-0905（グループ直通）
FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること
担当学芸員：江上ゆか、村田大輔
e-mail: egami@artm.pref.hyogo.jp（江上）
TEL: 078-262-0909（学芸直通）　FAX: 078-262-0913（同）

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。
別紙の申込書をご使用ください。

同時開催の展覧会

特別展
日伊国交樹立150周年記念　世界遺産 ポンペイの壁画展
2016年10月15日〔土〕－12月25日〔日〕

県美プレミアム
〈小企画〉美術の中のかたち—手で見る造形
つなぐ×つつむ×つかむ：無視覚流鑑賞の極意
〈特集〉時間をひらく—新収蔵品を中心に
2016年7月2日〔土〕－11月6日〔日〕

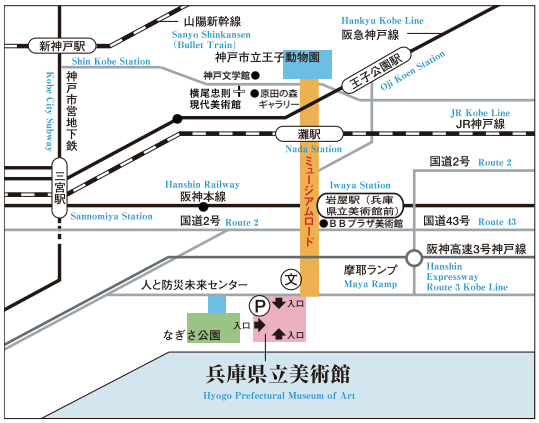
〈小企画〉ハナヤ勘兵衛の時代デェ!!（仮称）
〈特集〉彫刻大集合（仮称）
2016年11月19日〔土〕－2017年3月19日〔日〕

横尾忠則現代美術館　TEL. 078-855-5607
ヨコオ・マニアリスムvol.1
2016年8月6日〔土〕－11月27日〔日〕

ようこそ！横尾温泉郷
2016年12月17日〔土〕－2017年3月26日〔日〕

交通案内

阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分
JR神戸線灘駅から南に徒歩約10分
阪急神戸線王子公園駅から南西に徒歩約20分
神戸市バス・阪神バス「県立美術館前」下車すぐ
地下駐車場：乗用車80台収容・有料
＊ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
＊団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



広報画像申込書　　兵庫県立美術館

注目作家紹介プログラム　チャンネル７　髙橋耕平―街の仮縫い、個と歩み

2016 年 10 月 15 日（土）～11 月 20 日（日）

営業・広報グループ　宛　ＦＡＸ（０７８）２６２－０９０３

〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1　電話（078）262－0905（直通）

ご希望の画像の番号に〇をつけてください。後日データ（. jpg）をお送りいたします。

番号	作家名・作品名・制作年　など
1	髙橋耕平《神戸市の路上−電線点検作業》2016 年　※引用資料：人と防災未来センター蔵
2	髙橋耕平《神戸市の公園−仮設住宅に庇を設置》2016 年　※引用資料：人と防災未来センター蔵

※上記作品画像を媒体掲載されるときには、記載の**作家名・作品名・制作年など**を必ず入れてください。
※作品画像は**全図で使用**してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。
※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。（会期終了まで）
※再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
※Web サイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。
※基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で営業・広報グループまでお送り願います。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット　『　　』		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		ＦＡＸ	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着 希望日	

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URL などを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いします。
※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材･撮影はお断りいたします。